

日本語スピーチ大会

第2弾!

●十月三日(土)、弁天町のORC200で、港区主催で外国人による日本語スピーチ大会が開催されました。第1回目となるこの催しには、港区内の3つの日本語教室と、1つのインターナショナルスクールが参加しました。Y.M.C.A大阪国際学校のかわいい小学生たちのスピーチの後、それぞれの日本語教室からの代表のスピーチがありました。市岡日本語教室からは7人の学習者が参加しました。弁天町日本語勉強会の代表として出場した1人も含めると合計8人の市岡の学習者が出場し、会場を大いにわきました。そのスピーチ大会の様態を採録したいと思います。



友達

5班 ノフリタ (インドネシア)

友達というのは何でも自分のことを分かってくれる人で、その人と時間を楽しく過ごせます。他人ですけれども、家族のようです。年齢に差があっても、気があったらいい友達になれます。家族に話せないこと、一緒にできないことがありますが、しかし、友達となら何でもできると思います。少しいたずらや話など分かち合えます。友達とは軽い話から将来の話まで分かち合えて、迷った時や競争までできます。私にとっては、友達はただの友達ではないと思って、私の人生の一人の大切な人です。友達とはすごいと思います。なぜかという、友達と何か話し合ったり相談したりしている新しい情報、考え方ができました。

私はよく友達と将来について話しました。「私は大学院に行きたいよ」と私が友達に話しました。「でもできるだけ日本の大学院」と私が言いました。

でもその時まだただの希望だけでした。まだその希望をかなえるための何か努力がありませんでした。そのことを、インドネシアへ帰って大学を卒業したらまた考えます。後のことは後で考えます。それは私の考え方でした。友達は「どんな条件が日本の大学院に入るのか分かってますか?」と聞きました。「それなら後で探しますよ。」「えっ、まだ探さないの。それは大変ですよ。卒業したらあまり時間ないでしょ」「日本の大学院でしょ。日本にいるうちに探すほうがいいじゃない。情報はもっと探しやすいと思う」「あなたのその考え方をやめて。」「ああそうよね」とわたしは納得しました。私はずっとそういう考え方だったので大変だと思います。その話から私の考え方がちよつと変わりました。いろいろアドバイスをもらって友達に相談してよかったです。

競争も友達とできますよ。私は同じクラスで勉強していた友達がいて友達がいつもいい成績をもらっていました。脳の問題ならそんなに差がないと思います。「どうして私はあの友達と同じようになれないの」私には疑問になりましたよ。私もあの友達のようになりたいと思います。でもどうしてかやっとならなりました。同じ能力ですが友達は私よりもっと頑張りましたかいい結果もええました。私ももっと頑張ったら、もっとやる気があがったら、きっとできます。やりたいなら全部やれます。その友達をみてから私の心にあの友達に負けたくない気がおこりました。おかげでもっと頑張れました。

今から私に残っている長い人生が友達のおかげで大きな影響を受けました。つまり、友達というのはただつき合っただけの遊びばかりする存在ではなくてお互いの発展にも役に立つ一生の仲間だと思えます。



1班 バクテイ ウトモ (インドネシア)

インドネシアから来ました。バクテイ ウトモです。

2008年2月25日は私が日本の近畿車輛という電車を作っている会社に来たの日です。その日からかぞえてもう今は1年半以上経ちましたが、日本に来た時は冬だったので、とても寒くて辛かったです。インドネシアと全然違うなーあとと思ってしまいました。びっくりしたままの状態でした。新しい生活を守らなければならなくて、日本語もあまり分からなくて誰も知らなくてとても困りました。だから分からないこととか知らない日本の言葉とかがあれば会社の先輩に聞きました。いつも先輩が親切に答えてくれて出来るまで教えてくれました。とてもやさしいです。近畿車輛で電車を作る工程でいろいろな工場に分かれてあります。私は構体工場の塗装班で仕事をしています。近畿車輛が作った電車は国内はもちろん、国外でもドバイ、カイロなどに作って輸出されています。私が一番初めて作った電車はドバイの電車でした。自分にとって、ドバイの電車は今でも一番印象に残っている電車です。ドバイの電車はどうやって走

るのか知っていますか?初めて作った電車だったので、とても印象に残っています。ドバイの電車は走っている時に運転手がいません。車掌もいません。基本的にオートマチックで動きます。私の働いている会社がデザインしました。とてもすごいと思っています。時間がずつとながれてきて、今はドバイの電車を作る仕事が終わってしまいました。今はアメリカのダラスを走る電車を作っています。ダラスの検査はともきびしくて難しいです。社内での検査だけではなく、アメリカからも人が来て、ちよくせつ検査しています。検査の時、自分が作った電車は「いけるのかなあ」「検査通るかなあ」と少し心配になります。でもそこで自分に負けないでしっかり頑張って仕事を続けたいと思っています。

日常の生活は仕事だけではありません。私の他に12名の研修生がいます。その人々と会社のどうりようと社内のドラゴンボートのチームに入り大会に参加したり、休日にフットサルをしたり、時々友達とえんそうを楽しんだりしていました。今は日本の生活もなれてくるようになりましたし、日本語もちよつとしゃべれるようになりました。日本の生活は、なれば日本に住みやすくなるかと思いましたが、やっぱり自分の国と比べると違うことがありました。日本は便利でぎじゅつがととも進んでいるかと思っています。私の国はそんなに便利ではなくて、ぎじゅつも日本とくらべたら負けました。でもその違うことから、いっぱいいろんなしきを見つけたらいいので、よかったです。ぎじゅつに負けてもインドネシアのかんこうはそんなに負けないかと思っています。バリ島、ロンボクなどがしぜんできれいにありますから。皆さん、もしよければ、ぜひ家族と一緒にインドネシアへ来て楽しんでください。

近畿車輛で研修生でいる間の目標は、会社で高度なぎじゅつを身につけて、日本での体験が私の一生の宝物になることを願っています。

今後の予定

- 1月8日(金)～2月19日(金) 通常学習。会場 市岡高校。
- 2月12日(金) 学習者による日本語スピーチ大会。会場 市岡高校。
- 2月26日(金) 日本語教室特別編。会場 港区民センター
- 3月5日(金) 日本語教室特別編。会場 弁天町市民学習センター
- 3月12日(金) 日本語教室特別編。会場 港区民センター
- 3月19日(金) 新規ボランティア説明会。ボランティア研修会。会場 港区民センター
- 3月26日(金) ボランティア研修会。会場 弁天町市民学習センター

がくしゅうしゃぼしゅうちゅう 学習者募集中!

日本語をべんきょうしたい外国人のみなさん、市岡にほんごきょうしつは生徒をぼしゅうしています。まいしゅう金ようび、よる7時から8時30分まで。お金はいりません。予約もいりません。きたいときに、いつでもきてください。
でんわ 080-3846-2581
e-mail: ichioka_nihongo_kyoshitsu@softbank.ne.jp